

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)・
ベネッセ教育総合研究所 共同研究 「乳幼児の生活と育ち」研究プロジェクト

乳幼児の生活と育ちに 関する調査 2017-2018

0-2歳児期

東京大学Cedepとベネッセ教育総合研究所は、
子どもの成長のプロセスを明らかにするための
縦断調査(追跡調査)を共同で進めています。
本冊子は、第2回調査の主な結果をまとめたものです。



目次

- | | | |
|---|---|---|
| 1. 0-2歳児期の発達や生活…6 | 2. 母親・父親の子育て意識、生活…10 | 3. 母親・父親の働き方…13 |
| <ul style="list-style-type: none">・生活リズム・外遊びやメディアの利用・就園状況・発達 | <ul style="list-style-type: none">・子育てや生活に対する意識・父親の子育て | <ul style="list-style-type: none">・母親の労働時間、
帰宅時間・父親の帰宅時間・職場環境 |

■研究プロジェクトの目的

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）とベネッセ教育総合研究所は、乳幼児の生活や発達について縦断的に研究するプロジェクトを共同で進めています。このプロジェクトは、子どもの生活や保護者の子育ての様子を複数年にわたって調査し、それらが子どもの成長・発達とともにどのように変化するのかを明らかにします。これにより、よりよい子どもへのかかわり方や子育て支援のあり方について検討することを目的としています。

■研究プロジェクトの特徴

1. 子どもの生活や発達、保護者の子育ての「今」をとらえることができる

このプロジェクトでは、2016年度に生まれた子どもをもつ保護者（調査モニター）に対して、毎年1回継続して調査を実施します。これにより、子どもの生活や発達、保護者の子育ての実態などの「今」の様子を明らかにできます。

2. 子どもの成長・発達の「プロセス」と「因果関係」をとらえることができる

このプロジェクトでは、子どもが毎年どのように成長・発達していくのか、また保護者のかかわりや意識はどのように変化したり、子どもの成長・発達に影響を与えたりするのかといった、親子の成長・発達の「プロセス」や「因果関係」を明らかにできます。

3. 母親・父親の意識や養育行動について幅広くとらえることができる

調査実施にあたり、調査票を世帯単位で配布して、保護者2名（主に母親・父親）に回答を依頼しています。そのため、養育行動や子ども・子育てに対する意識について、母親・父親の共通点や相違点、またその変化を幅広くとらえることができるとともに、夫婦関係が子どもの成長・発達に与える影響なども明らかにできます。

■研究プロジェクトのメンバー

秋田 喜代美	東京大学大学院教育学研究科長・教授
遠藤 利彦	東京大学 Cedep センター長・教授
野澤 祥子	東京大学 Cedep・准教授
佐藤 香	東京大学社会科学研究所教授
島津 明人	慶應義塾大学総合政策学部教授
小崎 恭弘	大阪教育大学教育学部准教授
宇佐美 慧	東京大学高大接続研究開発センター准教授
大久保 圭介	東京大学大学院教育学研究科博士課程
唐 音啓	東京大学大学院教育学研究科博士課程

谷山 和成	ベネッセ教育総合研究所 所長
木村 治生	ベネッセ教育総合研究所 主席研究員
高岡 純子	ベネッセ教育総合研究所 学び・生活研究室室長 主席研究員
岡部 悟志	ベネッセ教育総合研究所 学び・生活研究室 主任研究員
持田 聖子	ベネッセ教育総合研究所 学び・生活研究室 主任研究員
真田 美恵子	ベネッセ教育総合研究所 学び・生活研究室 主任研究員
李 知苑	ベネッセ教育総合研究所 学び・生活研究室 研究員

「乳幼児の生活と育ちに関する調査 2018」 概要

●方法：郵送法(自記式質問紙調査)

●時期：2018年9月～10月

●対象：2016年4月2日～2017年4月1日生まれの子どもをもつ家庭3,021世帯(調査モニター)

発送数		有効回収数	有効回収率
3,021	主となる養育者	2,554 (うち母親 2,480)	84.5%
	副となる養育者	2,390 (うち父親 2,221)	79.1%

※本研究プロジェクトの調査モニターの世帯に調査票を配布した。調査モニターは、全国の対象月齢の子どものリストから、全国7地域の出生数の比率(厚生労働省「人口動態統計」2016年度)に応じて抽出した「調査モニター募集対象者」に対して、2017年7月～8月にかけて募集した。

※調査では子どもの「主となる養育者」と「副となる養育者」に回答を依頼した(「主となる養育者」のみの回答も可とした)。誰を「主」「副」とするかは、回答者に委ねた。

※調査時点で災害救助法の適用地域であった北海道、岡山・広島地区の一部(160件)を発送対象から除外した。

※調査時点で、子どもの月齢は1歳6か月～2歳5か月であった。

参考)「主となる養育者」「副となる養育者」の(子どもからみた)属性

		副となる養育者							合計
		母親	父親	祖母	祖父	その他	無答不明	未回収	
主となる養育者	母親	0	2,209	76	4	1	30	160	2,480
	父親	50	0	0	0	1	0	2	53
	祖母	2	0	0	0	0	0	0	2
	祖父	1	0	0	0	0	0	0	1
	無答不明	3	12	1	0	0	0	2	18
合計		56	2,221	77	4	2	30	164	2,554

※本冊子では、同じ子どもの発達や生活の変化をとらえるため、「乳幼児の生活と育ちに関する調査2017」、「同2018」のいずれも回答があった世帯(回答者としてもっとも多かった「主となる養育者」が「母親」の世帯)について報告する(上の表の母親2,480人のうち、「同2017」にも回答した2,409人、上の表の父親2,221人のうち、「同2017」にも回答した2,038人)。

●地域：全国

●主な調査項目：子どもの気質、アタッチメント、発達、生活時間、習い事、養育者の養育行動、配偶者との関係性、家事・子育ての分担比率、子育てで頼りになる人、幸福感、抑うつ、家事・子育てなどの負担感、保育環境、育児方策、職場の制度、仕事をする理由、仕事をしない理由など

●データを読む際の注意点

- ①図表内の()はサンプル数を示している。
- ②図表で使用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。
- ③子どもの生活や発達、世帯年収は「主となる養育者」にたずねたため、母親の回答を分析している(図表中に「母親の回答」と明記)。

*本調査は東京大学ライフサイエンス委員会倫理審査専門委員会の倫理審査の承認を受け、実施しています。

基本属性（子ども・世帯）

●子どもの性別



※母親の回答

●子どもの出生順位



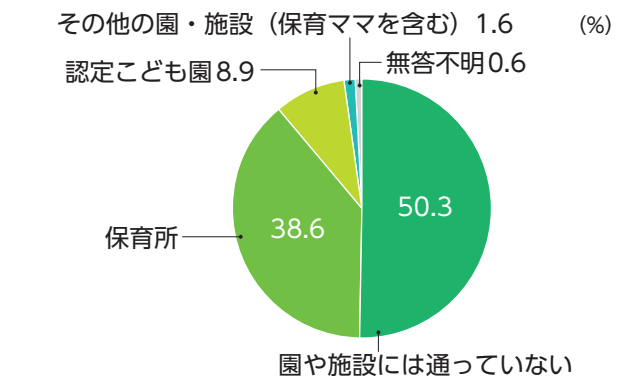
※母親の回答

●子どもの月齢（調査時点）

		割合 (%)	
1歳6か月	8.2	2歳0か月	9.1
1歳7か月	6.3	2歳1か月	8.9
1歳8か月	8.6	2歳2か月	8.5
1歳9か月	9.1	2歳3か月	7.8
1歳10か月	8.5	2歳4か月	7.3
1歳11か月	10.3	2歳5か月	7.3

※母親の回答

●子どもの就園状況



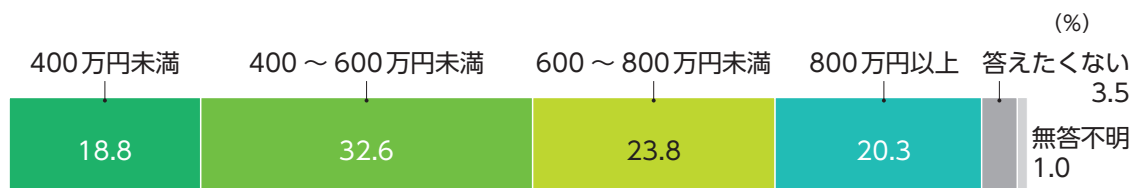
※母親の回答

※保育所には、認可外保育施設、小規模保育室を含む

●居住地域



●世帯年収

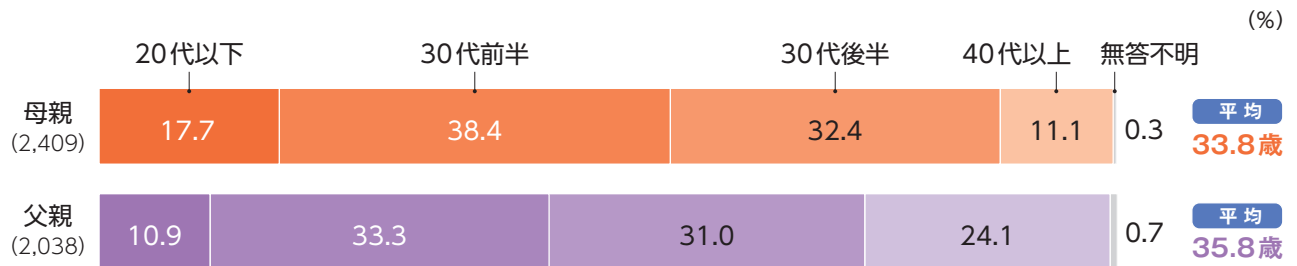


※母親の回答

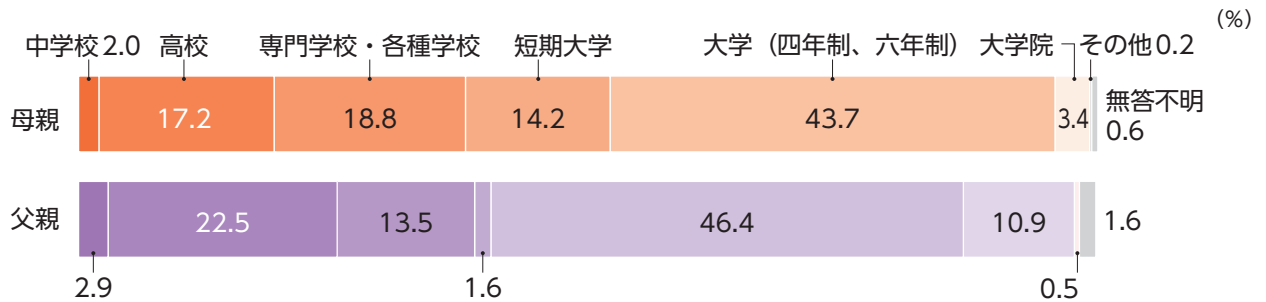
※「400万円未満」は「200万円未満」＋「200～300万円未満」＋「300～400万円未満」、
「400～600万円未満」は「400～500万円未満」＋「500～600万円未満」、
「800万円以上」は「800～1000万円未満」＋「1000～1500万円未満」＋「1500～2000万円未満」＋「2000万円以上」

基本属性（母親・父親）

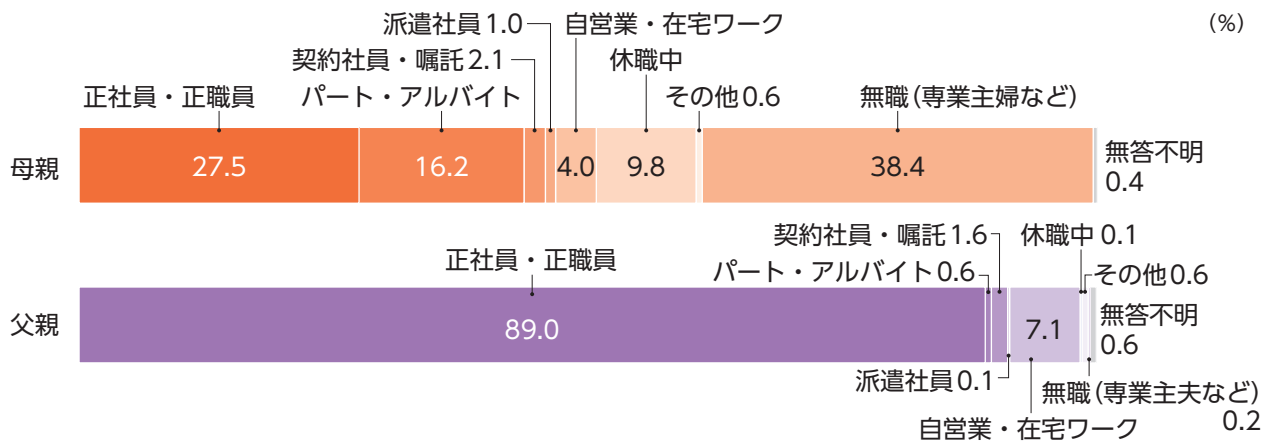
●年齢



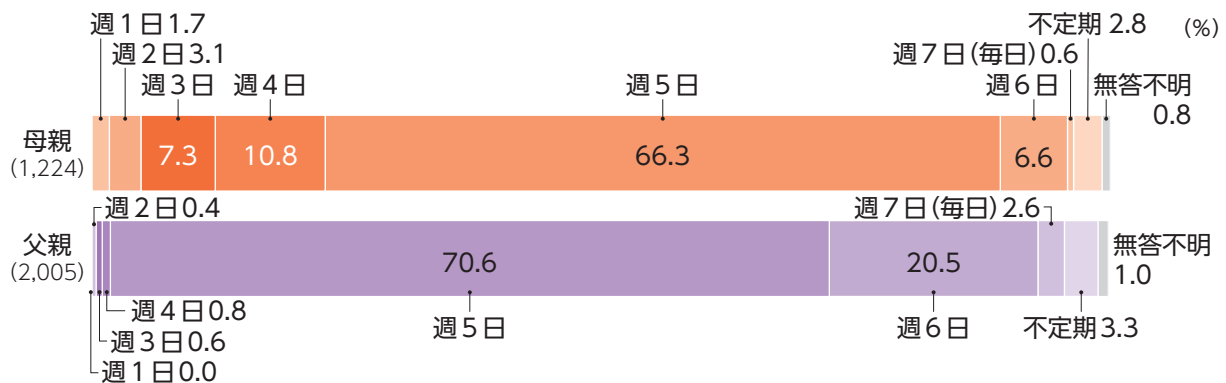
●最終学歴



●就労状況



●週あたりの労働日数（有職者）



※就労状況が「休職中」「無職」「その他」を除く、有職者の回答

1. 0－2歳児期の発達や生活

生活リズム

1－2歳児期の起床時刻は「6時半頃」から「7時頃」が約半数。

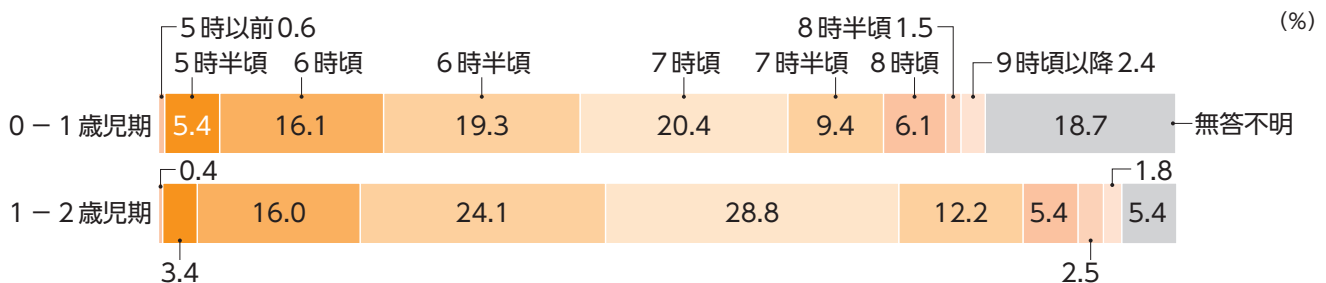
昼寝の時間は「2時間くらい」が約4割。就寝時刻は「21時頃」から「21時半頃」が約半数。

0－1歳児期の起床時刻、昼寝の時間、就寝時刻は他の項目に比べて「無答不明」が約2割と高かった(図1-1-1～3)。これは、子どもの生活リズムがまだ整っていないために時間帯を選択できなかったとも考えられる。1－2歳児期になると、起床時刻は「6時半頃」と「7時頃」を合わせて52.9%、昼寝の時間は「2時間くらい」が41.7%、就寝時刻は「21時頃」と「21時半頃」を合わせて49.5%となり、ゆるやかに分布の中心ができています。背景として、子どもの発達とともに生活リズムが整っていくことと、就園率の高まりとともに、園生活に合わせた時間で生活する子どもが増えることが考えられる。

Q

対象のお子様は平日、何時頃に起きますか。

図1-1-1 起床時刻



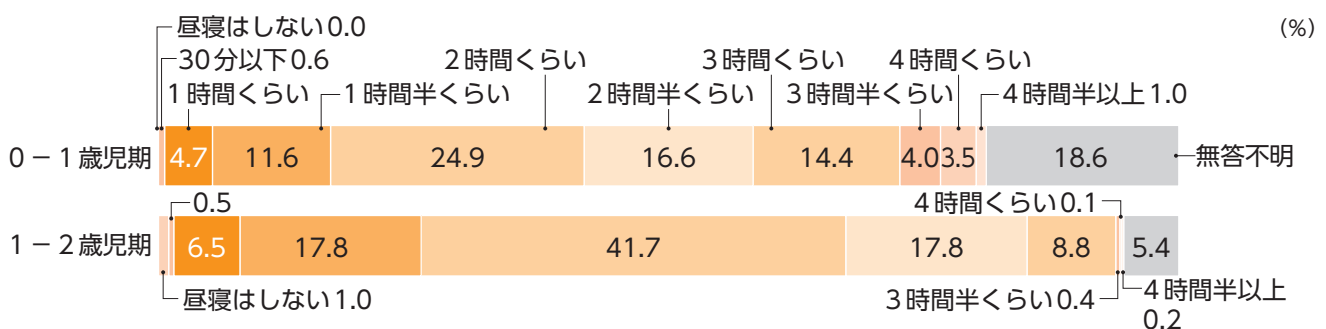
※母親の回答 ※「9時頃以降」は「9時頃」＋「9時半頃」＋「10時以降」

Q

対象のお子様は平日、どれくらい昼寝をしますか。(夜間以外の睡眠を合計してください)

園に通っている場合は、園での昼寝時間も含めてお答えください。

図1-1-2 昼寝の時間

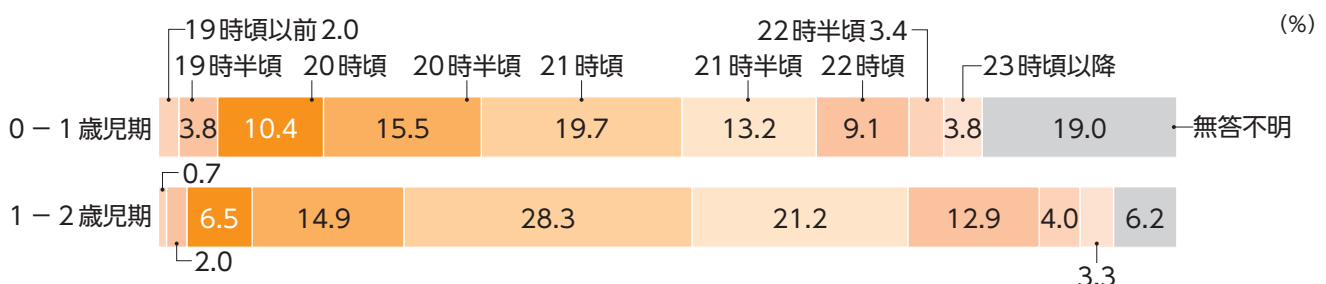


※母親の回答

Q

対象のお子様は平日の夜、何時頃に寝ますか。

図1-1-3 就寝時刻



※母親の回答 ※「19時頃以前」は「18時半以前」＋「19時頃」、「23時頃以降」は「23時頃」＋「23時半頃」＋「24時以降」

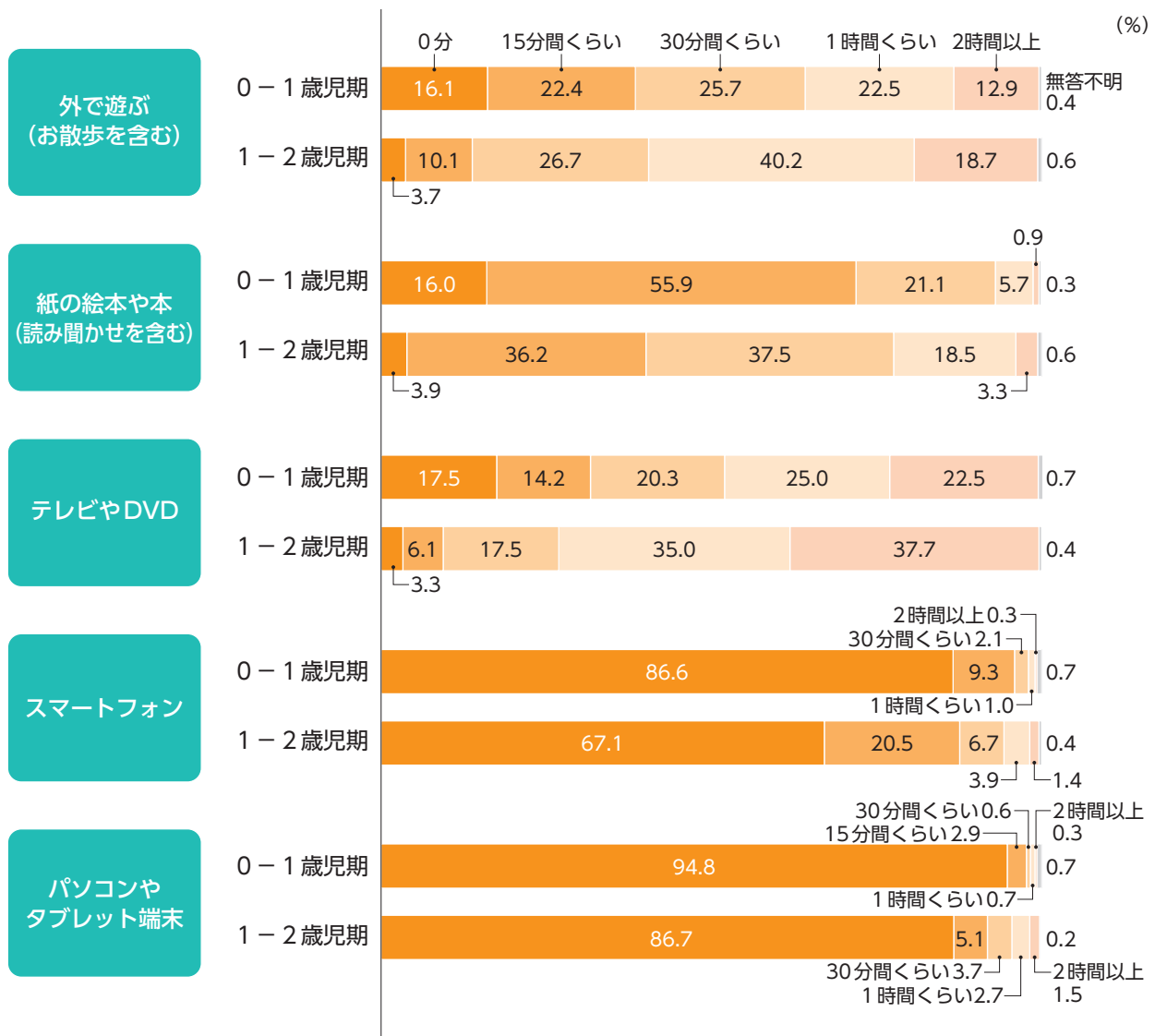
外遊び、絵本、テレビやDVD、スマートフォンなど、いずれも0－1歳児期より1－2歳児期のほうが利用時間が長くなる。

外遊びや絵本や本の読み聞かせ、メディアの利用について、平日に子どもがどれくらいの時間しているかをたずねた。いずれも0－1歳児期より1－2歳児期のほうが時間が長くなっている。1－2歳児期について、もっとも選択率が高かった時間は、「外で遊ぶ(お散歩を含む)」では「1時間くらい」が40.2%、「紙の絵本や本(読み聞かせを含む)」では「30分間くらい」が37.5%、「テレビやDVD」では「2時間以上」が37.7%であった。「スマートフォン」と「パソコンやタブレット端末」は0－1歳児期には利用が少なかったが、1－2歳児期では利用時間がやや長くなっている。

Q

対象のお子様が平日に、以下のことをしたり、見たり、使ったりする時間は、1日だいたいどれくらいですか。

図1－2 外遊び、読み聞かせ、メディアの利用時間



※母親の回答

※「2時間以上」は「2時間くらい」＋「3時間くらい」＋「4時間以上」

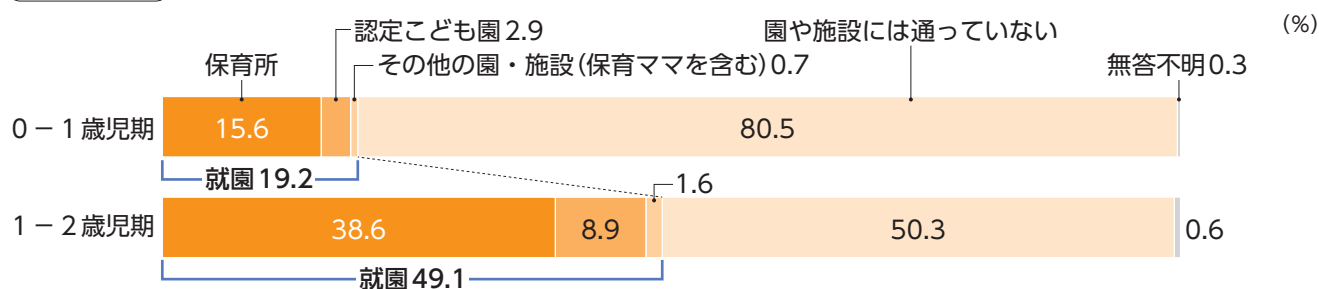
0-1歳児期と比べて1-2歳児期では、子どもの就園率が約30ポイント増加。

園で過ごす時間は「8時間」「9時間」「10時間」が2割台ずつ。

0-1歳児期には、保育所などに通っている比率(就園率)は19.2%であったが、1-2歳児期には約30ポイント増えて49.1%となった(図1-3-1)。子どもが園で過ごす時間は、0-1歳児期と1-2歳児期ではほぼ変わらず、約7割が「8時間くらい」から「10時間くらい」である(図1-3-2)。園に通わない子どもについて、母親が同年代の子どもがいる人と会う機会は、1-2歳児期では「週に1~2日」が33.2%であり、もっとも多い(図1-3-3)。子どもを祖父母や保育所の一時保育などに預ける機会は45.7%の母親が「ほとんどない」と回答した(図1-3-4)。

Q 対象のお子様について教えてください。

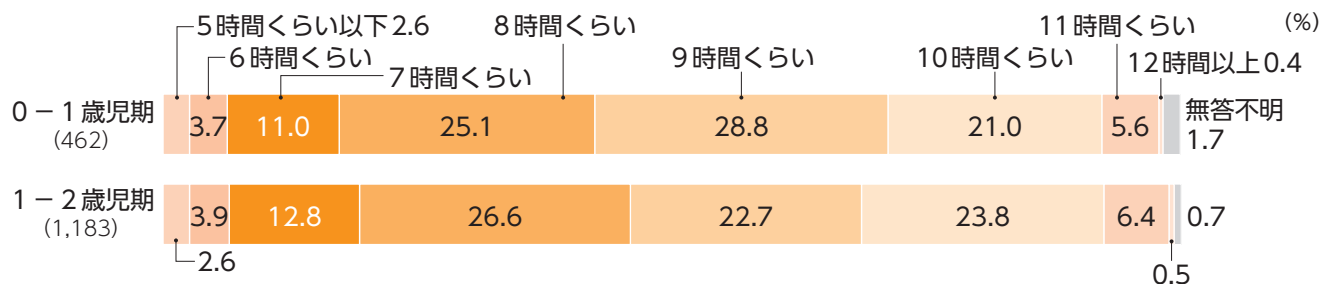
図1-3-1 就園状況



※母親の回答 ※保育所には、認可外保育施設、小規模保育室を含む

Q 1日のうち、どれくらいの時間を園(保育所、認定こども園、その他の園・施設)で過ごしますか。

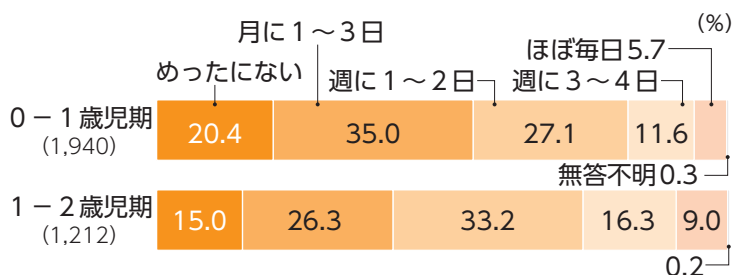
図1-3-2 園で過ごす時間(就園児)



※母親の回答 ※就園している人の回答 ※「5時間くらい以下」は「3時間以下」+「4時間くらい」+「5時間くらい」

Q 子育て支援センターや児童館、友人宅への訪問などを通して、対象のお子様と同年代の子どもがいる人と会ったり、話をしたりすることはどれくらいありますか。

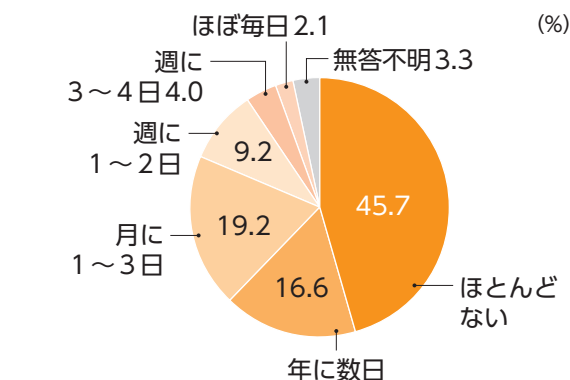
図1-3-3 同年代の子どもがいる人と会う機会(未就園児)



※母親の回答 ※就園していない人の回答
※「めったにない」は1-2歳児期では「ほとんどない」+「年に数日」

Q (お子様の)祖父母や保育所の一時保育、ファミリーサポートなどに対象のお子様を預けることはどれくらいありますか。

図1-3-4 子どもを預ける機会(1-2歳児期、未就園児)



※母親の回答 ※就園していない1,212人の回答

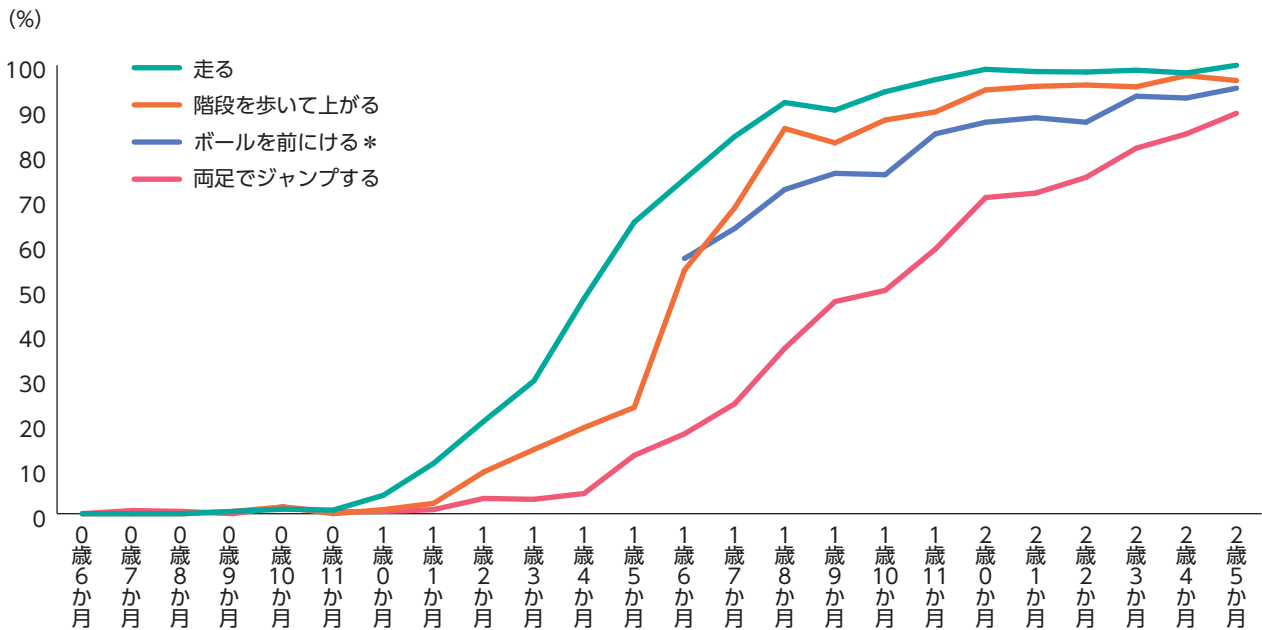
運動発達、言葉の発達ともに、1歳児期の後半から大きくのびる。

0歳6か月から2歳5か月にかけて、子どもの運動発達、言葉の発達はめざましい。「走る」は、1歳1か月から1歳7か月にかけて、月齢が1つ上がるごとに「できる」比率が大きく増えていく(図1-4-1)。言葉にかかわる「自分の名前を言う」「二語文(「わんわん、来た」以上を話す)」「絵本を見て物の名前を言う」「『おいしいね』『かわいいね』などと言う」は、1歳児期の後半から2歳児期にかけてのびていき、2歳5か月では8~9割が「よくする」または「できる」ようになる(図1-4-2)。

Q

対象のお子様の発達や行動について、あてはまる番号に○をつけてください。

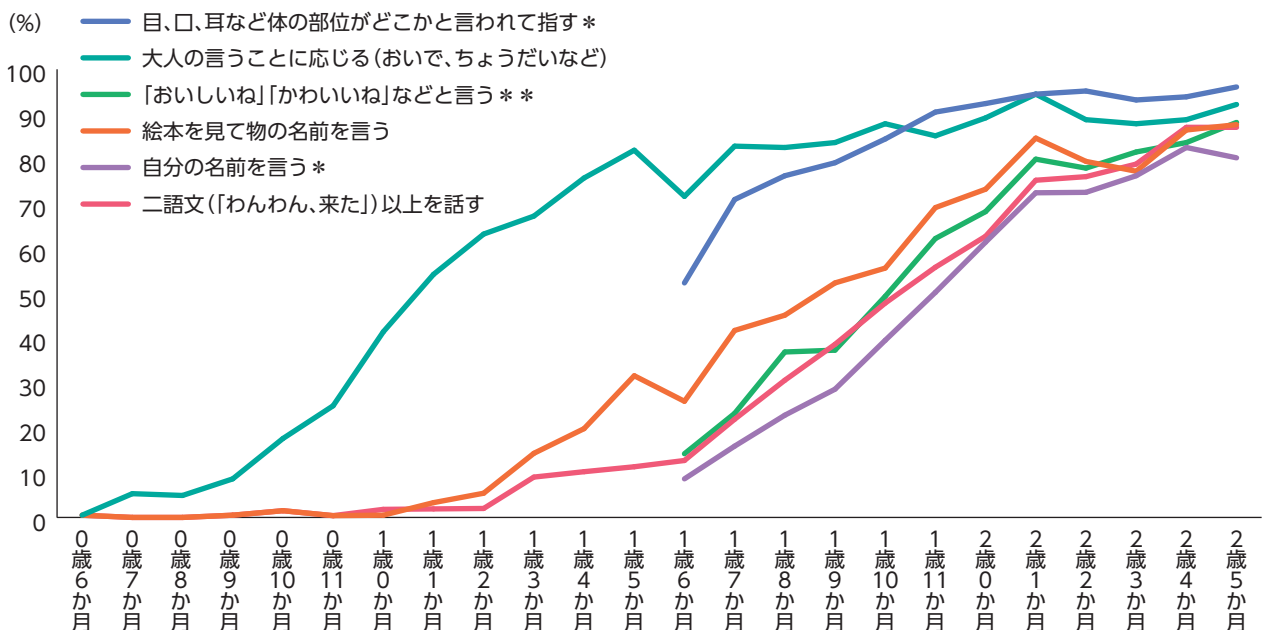
図1-4-1 粗大運動の発達(0-1歳児期、1-2歳児期、月齢別)



※「できる」 ※母親の回答 ※0歳6か月～1歳5か月は0-1歳児期、1歳6か月～2歳5か月は1-2歳児期の回答

※*は1-2歳児期のみ項目

図1-4-2 言葉の発達(0-1歳児期、1-2歳児期、月齢別)



※「よくする」 ※母親の回答 ※0歳6か月～1歳5か月は0-1歳児期、1歳6か月～2歳5か月は1-2歳児期の回答

※*は1-2歳児期のみ項目で「できる」、**は1-2歳児期のみ項目

2. 母親・父親の子育て意識、生活

子育てや生活に対する意識

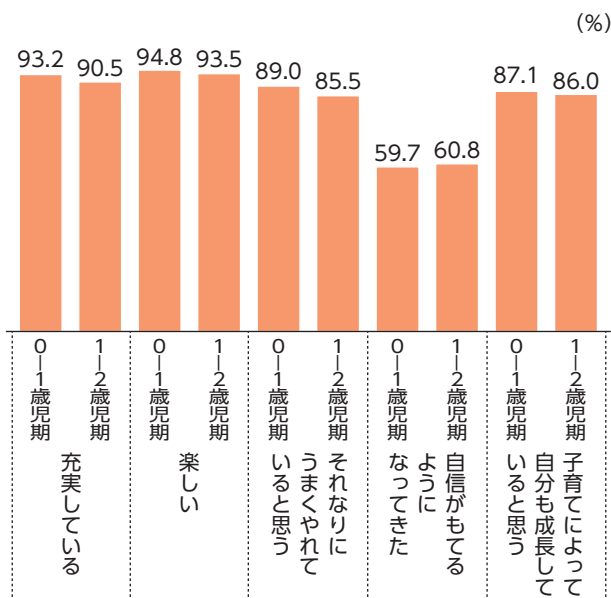
約9割の母親・父親は、子育てに充実感や楽しさを感じている。一方で、約4～5割の母親・父親は「子どもがうまく育っているか不安になる」。

子育てに対して、9割以上の母親・父親が「充実している」「楽しい」と感じている(図2-1-1～2)。ただし、0-1歳児期と比べると1-2歳児期では、母親が肯定的な気持ちについて「あてはまる」と回答する比率がやや下がる傾向がある。子育てに対する否定的な気持ちについて、0-1歳児期と比べて1-2歳児期では母親においてわずかに高くなる傾向がみられたが、父親ではわずかに低くなっている(図2-1-3～4)。

Q

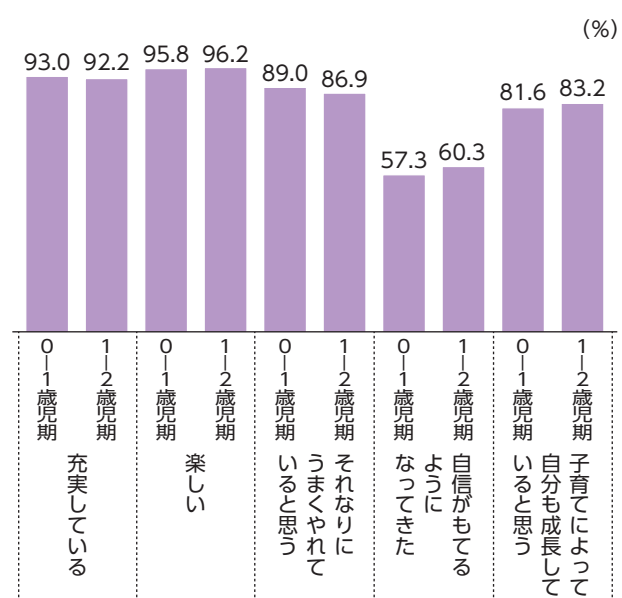
対象のお子様について、以下はどれくらいあてはまりますか。

図2-1-1 子育てに対する母親の肯定的な気持ち



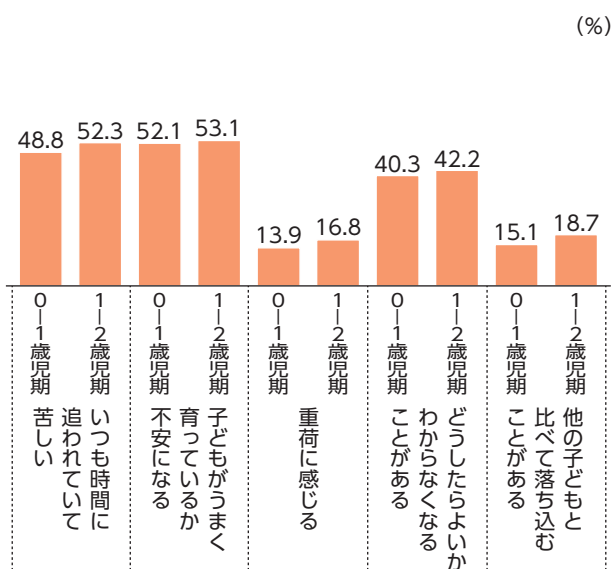
※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」

図2-1-2 子育てに対する父親の肯定的な気持ち



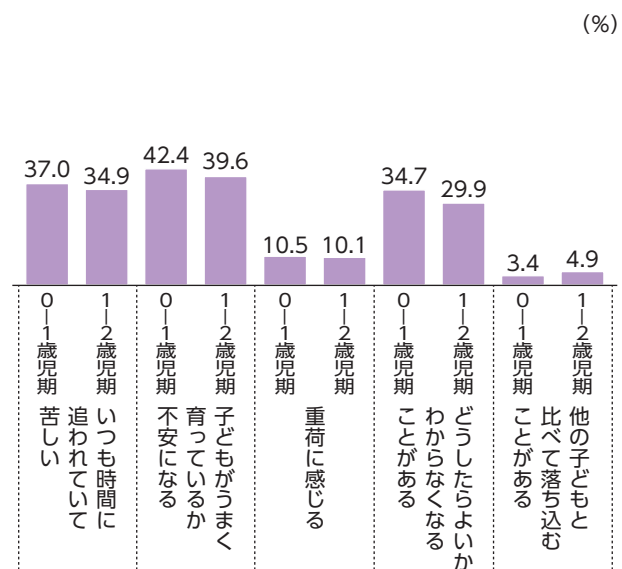
※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」

図2-1-3 子育てに対する母親の否定的な気持ち



※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」

図2-1-4 子育てに対する父親の否定的な気持ち



※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」

子育ての日常的なストレスは父親よりも母親のほうが高い。

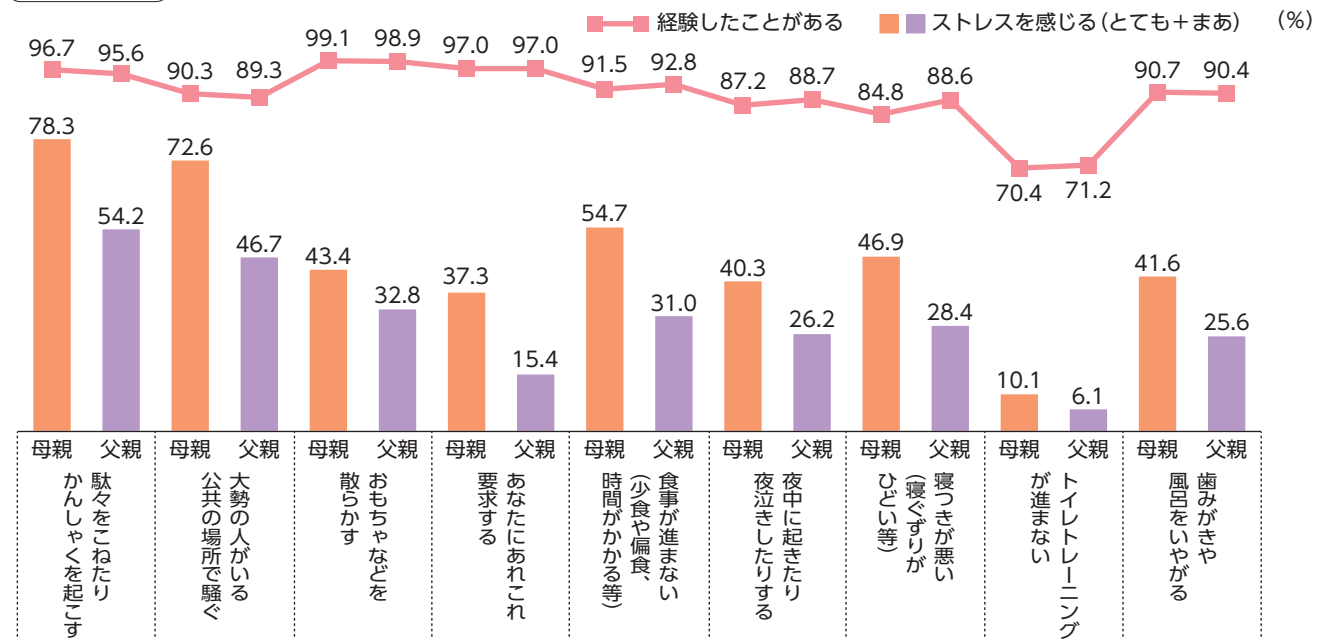
また「自分の自由にできる時間が十分にとれない」と感じる母親が7～8割台いる。

子育てのストレスについて、図2-1-5で示す場面を「経験したことがある」比率は、母親・父親でほぼ変わらなかったが、ストレスを感じる比率は、いずれも母親のほうが高かった。とくに「駄々をこねたりかんしゃくを起こす」「大勢の人がいる公共の場所で騒ぐ」は、母親の7割台がストレスを感じている。また、生活全般の負担感などについてたずねると、「自分の自由にできる時間が十分にとれない」と感じる母親が、就労状況によらず7～8割台と高い傾向がみられた(図2-1-6)。

Q

対象のお子様の様子について以下の経験はありますか。ある場合、あなたはどのように感じていますか。

図2-1-5 子育てのストレス(1-2歳児期)

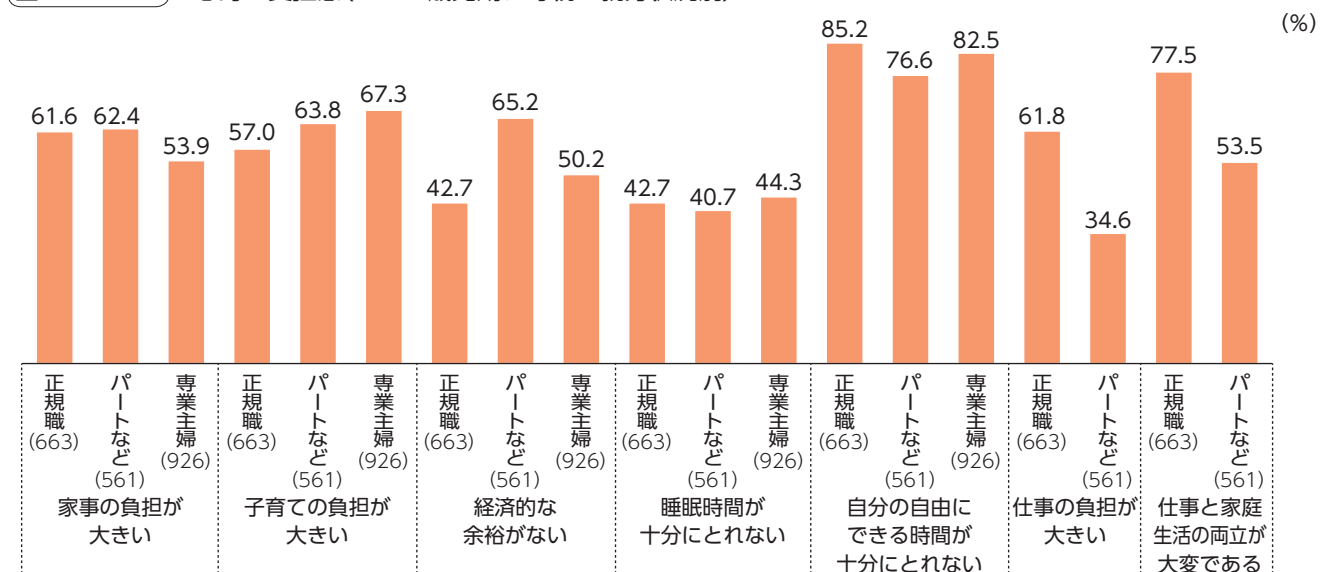


※「ストレスを感じる」は、「経験したことがない」と回答した人を含めたすべての回答者のうち、「とてもストレスを感じる」+「まあストレスを感じる」

Q

現在のあなたの状況について、以下はどれくらいあてはまりますか。

図2-1-6 心身の負担感(1-2歳児期、母親の就労状況別)



※母親の回答

※「正規職」は「正社員・正職員」、「パートなど」は「パート・アルバイト」「契約社員・嘱託」「派遣社員」「自営業・在宅ワーク」

※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」 ※右2つの項目は有職者の回答

父親の平日の子育ては「1時間未満」がもっとも多く36.8%。

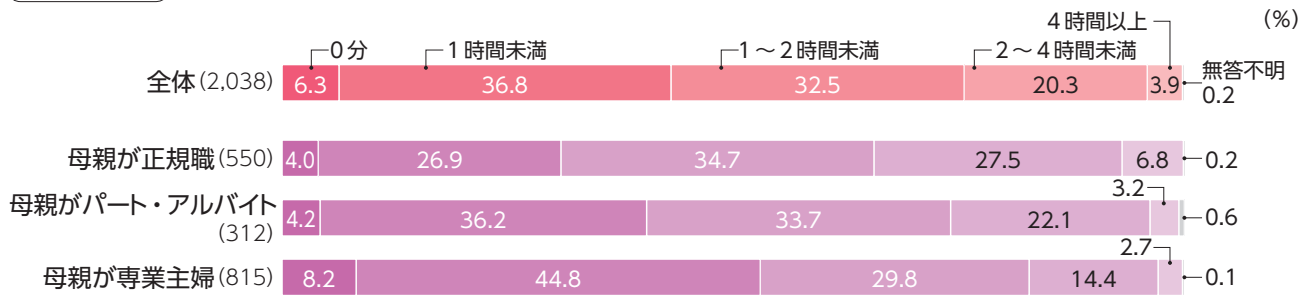
子育ての分担比率は、母親が「8～9割」である家庭がもっとも多い。

2.

父親の平日の子育て時間では「1時間未満」がもっとも多く36.8%、家事では「30分未満」がもっとも多く38.7%であった(図2-2-1～2)。子育ても家事も、母親(妻)の就労状況によって、父親がかかわる時間は異なる傾向があり、正規職の母親(妻)の家庭で父親の子育てや家事がより長いことがうかがえる。子育ての分担比率については、母親が「8～9割」を分担しているという回答が母親52.7%、父親57.3%ともっとも多かった。分担の希望については、母親、父親ともに、母親が「6～7割」と回答する比率が高く、母親で47.0%、父親で39.1%であった。

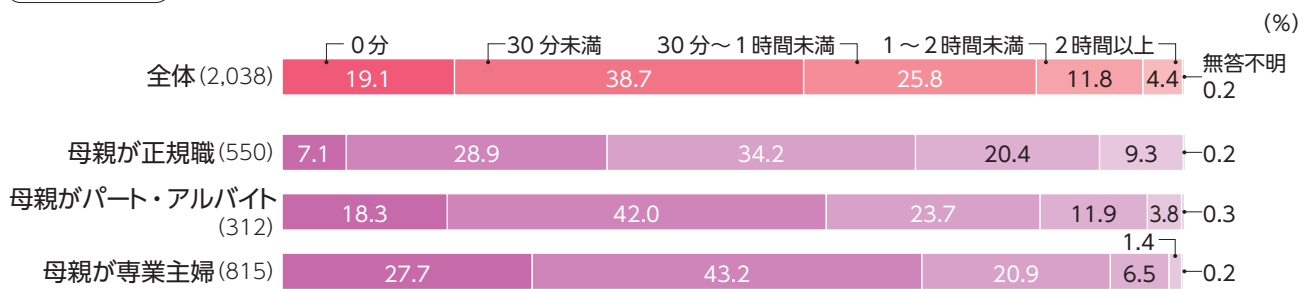
Q 以下にあげる時間は、1日あたり平均してどれくらいですか。子育て時間は、あなたが対象のお子様と一緒に過ごす時間(睡眠時間は除く)をお答えください。

図2-2-1 父親の平日の子育て時間(1～2歳児期、母親の就労状況別)



※父親の回答 ※「正規職」は「正社員・正職員」 ※「4時間以上」は「4～6時間未満」+「6～10時間未満」+「10～15時間未満」+「15時間以上」

図2-2-2 父親の平日の家事時間(1～2歳児期、母親の就労状況別)



※父親の回答 ※「正規職」は「正社員・正職員」 ※「2時間以上」は「2～4時間未満」+「4～6時間未満」+「6時間以上」

Q あなたと配偶者の子育て・家事の分担のうち、あなたが実際に分担している割合はどれくらいですか。あなたが希望する分担の割合はどれくらいですか。

図2-2-3 実際の子育ての分担比率(1～2歳児期)

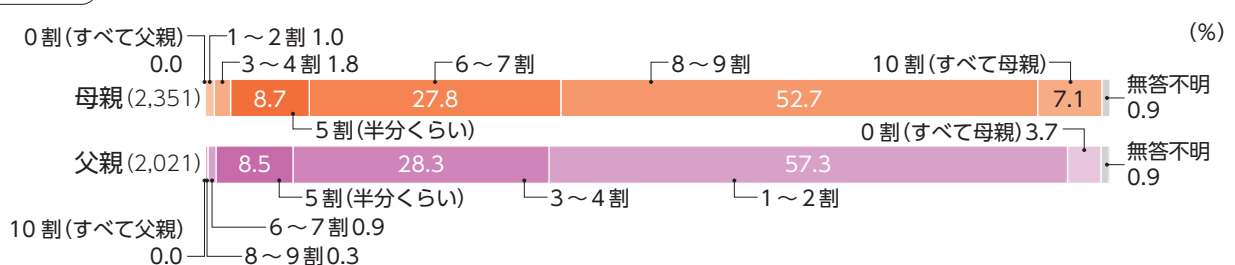
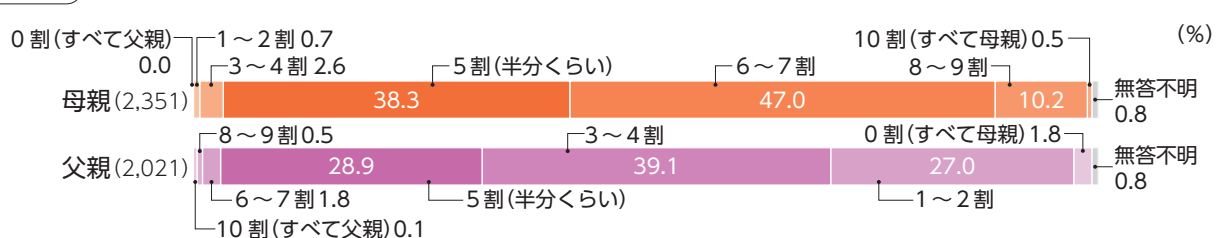


図2-2-4 希望する子育ての分担比率(1～2歳児期)



3. 母親・父親の働き方

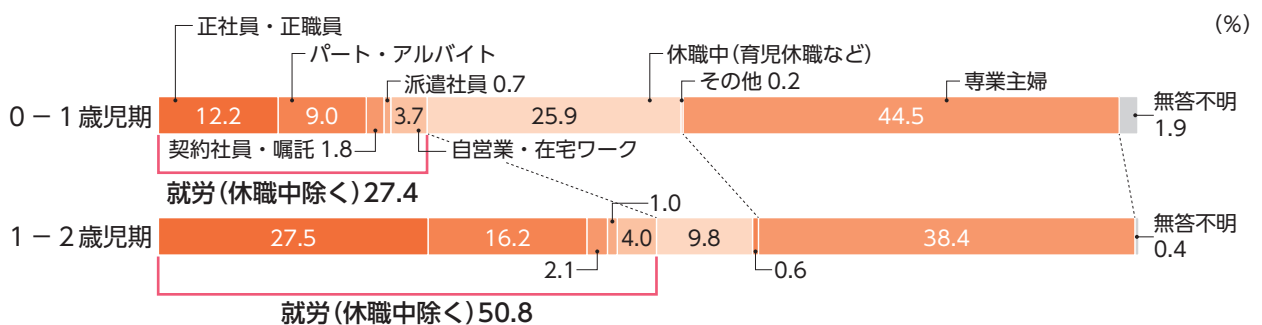
母親の労働時間、帰宅時間

子どもが0～1歳児期から1～2歳児期にかけて、仕事をする母親が大きく増加。
1～2歳児期では仕事をする母親が約5割、専業主婦が約4割に。

0～1歳児期には27.4%だった母親の就労率は、1～2歳児期には約20ポイント増えて50.8%となった(図3-1-1)。週あたりの労働時間について、正規職の母親の48.6%は「30～40時間未満」、パート・アルバイトの母親の53.2%は「15～30時間未満」である(図3-1-2)。正規職の母親の87.9%は18時まで(「17時台」まで)の帰宅を希望しているが、実際に18時までに帰宅できるのは43.9%である(図3-1-3)。パート・アルバイトの母親の71.1%は17時まで(「15～16時台」まで)の帰宅を希望しているが、実際に17時までに帰宅できるのは50.1%である(図3-1-4)。

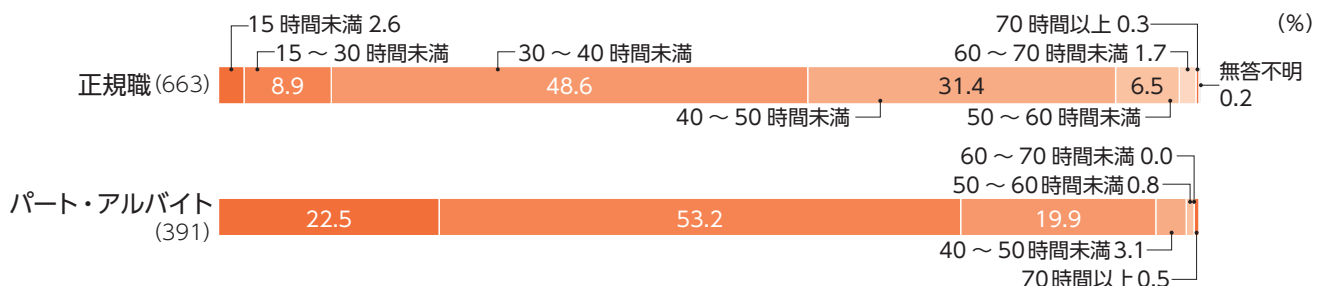
Q あなたについて教えてください。

図3-1-1 母親の就労状況



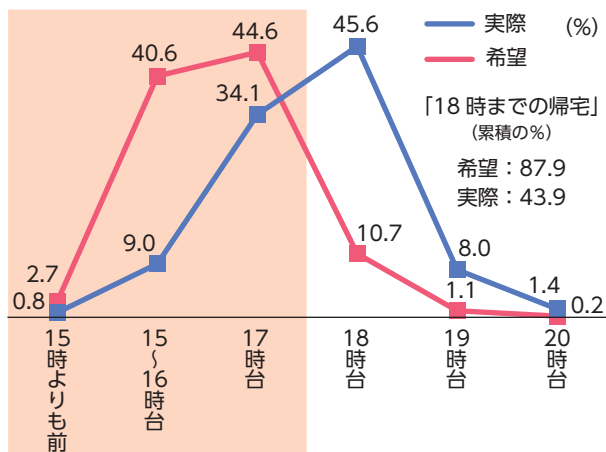
※母親の回答

図3-1-2 週あたりの労働時間(1～2歳児期、有職の母親、就労状況別)



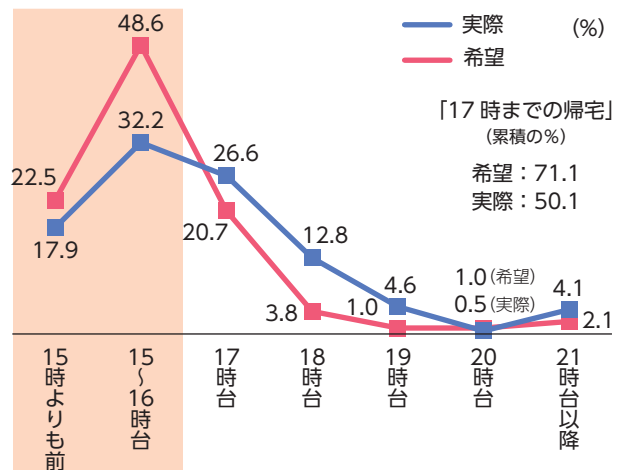
※「正規職」は「正社員・正職員」 ※「正規職」と「パート・アルバイト」のみ図示

図3-1-3 正規職の母親の平日の帰宅時間(1～2歳児期、実際と希望)



※「正社員・正職員」の母親 663 人の回答 ※無答不明は省略
※「21時台以降」はなし

図3-1-4 パート・アルバイトの母親の平日の帰宅時間(1～2歳児期、実際と希望)



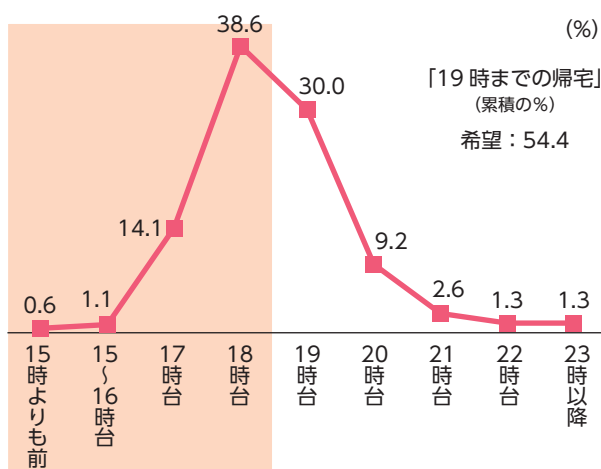
※「パート・アルバイト」の母親 391 人の回答 ※無答不明は省略
※「21時台以降」は「21時台」+「22時台」+「23時以降」

母親の54.4%は、父親(夫)には「19時までに帰ってきてほしい」。父親の59.1%も「19時までに帰りたい」、でも実際に19時までに帰宅できる父親は約4人に1人。

仕事をする配偶者に帰宅してほしい時間を母親にたずねた。全体の54.4%が「19時まで(「18時台」まで)に帰ってきてほしい」と回答した(図3-2-1)。父親の59.1%も「19時までに帰りたい」と回答したが、実際に19時までに帰宅できる父親は24.9%である(図3-2-2)。19時までに帰宅できる父親の48.9%は、平日に子育てを「2時間以上」している(図3-2-3)。また父親の平日の子育て時間が長いほうが、母親・父親ともに、夫婦で「子育てや家事をよく助け合っている」と感じている(図3-2-4)。

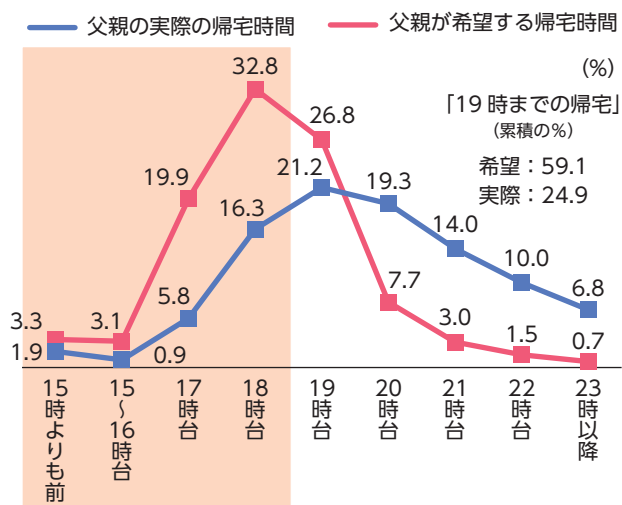
Q あなたについて教えてください。

図3-2-1 母親が希望する、父親(夫)の平日の帰宅時間(1-2歳児期)



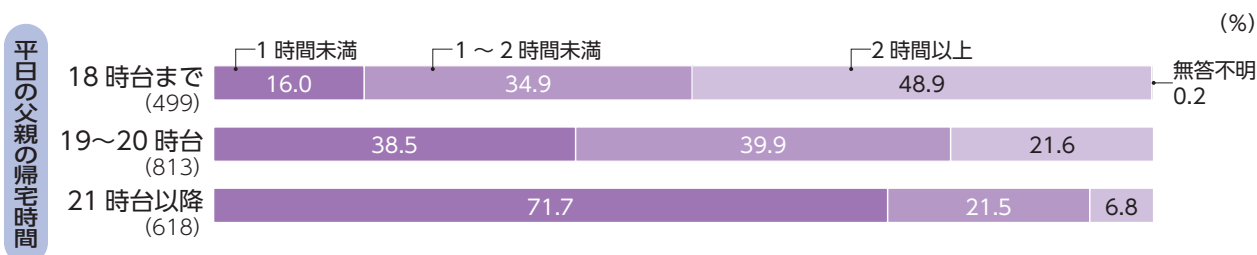
※有職の配偶者のいる母親 2,155 人の回答 ※無答不明は省略

図3-2-2 父親の平日の帰宅時間(1-2歳児期、実際と希望)



※有職の父親 2,005 人の回答 ※無答不明は省略

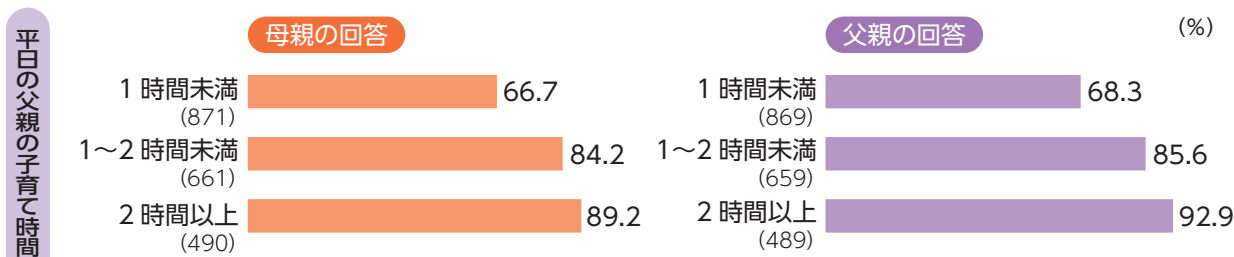
図3-2-3 父親が平日に子育てをする時間(1-2歳児期、父親の平日の帰宅時間別)



※「子育てをする時間」は、「対象のお子様と一緒に過ごす時間(睡眠時間は除く)」としてたずねた ※有職の父親の回答

※「18時台まで」は「15時よりも前」+「15～16時台」+「17時台」+「18時台」、「21時台以降」は「21時台」+「22時台」+「23時以降」

図3-2-4 「子育てや家事をよく助け合っている」(1-2歳児期、父親の平日の子育て時間別)



※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」 ※配偶者のいる母親・父親の回答

※「1時間未満」は「0分」+「1時間未満」、「2時間以上」は「2～4時間未満」+「4～6時間未満」+「6～10時間未満」+「10～15時間未満」+「15時間以上」

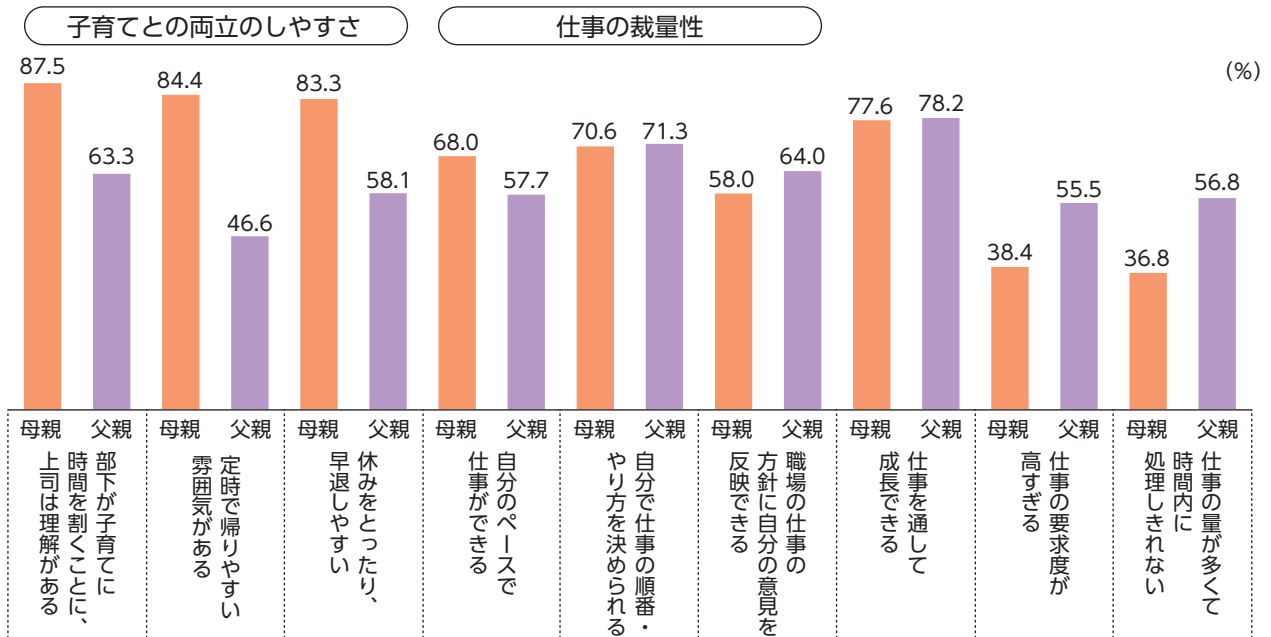
職場環境について、「定時に帰しやすい雰囲気がある」と回答した仕事をする母親は84.4%、父親は46.6%。

仕事をする母親・父親に、職場環境や職場の制度をたずねた。子育てとの両立のしやすさにかかわる「部下が子育てに時間を割くことに、上司は理解がある」「定時に帰しやすい雰囲気がある」「休みをとったり、早退しやすい」については、いずれも母親の肯定率は8割を超えたが、父親は4～6割台であった(図3-3-1)。職場の制度については、「育児休業制度」「短時間勤務制度」「子どもの看護休暇制度」のいずれも父親の利用率は約1割かそれ以下であり、母親の利用率(約4～9割)と大きく異なる(図3-3-2)。

Q

あなたの職場では、以下についてどれくらいあてはまりますか。

図3-3-1 職場環境(1-2歳児期、有職者)

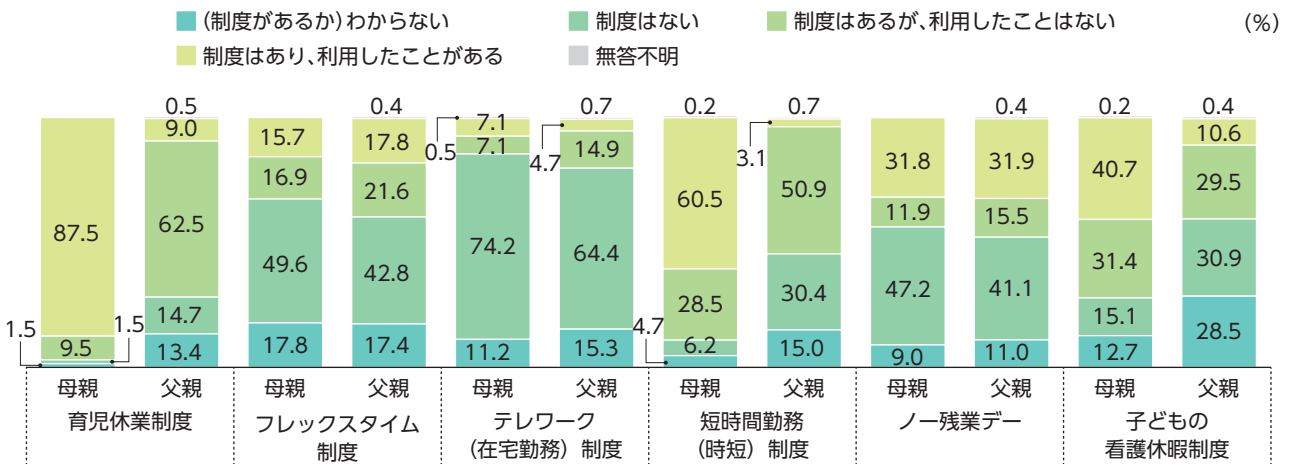


※就労状況が「休職中」「無職」「その他」を除く、有職の母親 1,224 人、父親 2,005 人の回答 ※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」

Q

あなたの職場では、以下の制度や活動はありますか。またある場合、利用したことがありますか。

図3-3-2 職場の制度(1-2歳児期、正規職の有職者)



※「正社員・正職員」の母親 663 人、父親 1,814 人の回答

ベネッセ教育総合研究所の web サイトのご紹介

本プロジェクトや本冊子、
ベネッセ教育総合研究所が行った他の調査結果を掲載しています。

ベネッセ教育総合研究所

検 索

<https://berd.benesse.jp/>



ベネッセ教育総合研究所では、各研究室の調査研究レポートや、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、大学の教職員を対象とした情報誌などを web サイトに掲載しています。

発行日：2019年10月1日

発行人：谷山 和成

編集人：高岡 純子

発行所：(株)ベネッセコーポレーション

ベネッセ教育総合研究所

東京都多摩市落合1-34

企画・制作：ベネッセ教育総合研究所

デザイン：G & Pアソシエーション（表紙：吉田正記）

© ベネッセ教育総合研究所／無断転載を禁じます。 8TT001-D

